

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所以来、利用者様のより良好な生活環境の、維持改善のための基本となる理念を作り、日常業務に当たっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員にはオリエンテーションを行い、文章で説明指導をしている。日常業務の中で、利用者様には尊厳をもって接し、困難事例に対してはスタッフ間で検討・学習しあい、対応を工夫するなどし、理念に沿った取り組みを行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域の民生委員、町内会関係者、ご家族に説明し、理解を得られるように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様との散歩時などに、挨拶を交わしたり、声をかけていただいたり、利用者様もご近所の方に声をかけたりしている。また、お近くにお住まいのご友人が訪ねてこられ、居室でお話されることもある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して、地域活動でできることには参加させていただきたいとお伝えしている。区民運動会を見学させていただいたり、ホームの敬老会に民生委員の方や町内会の方をご招待したり、ハロウィンには近くの英会話教室の子供たちが訪ねてきている。	

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通して、地域の方にグループホームの存在を知っていただき、高齢者との暮らしなどでの困りごとの相談に、気軽に立ち寄っていただけるようにアピールしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常業務に追われ、忙しさのあまり見逃しがちな評価項目も多くあることから、自己・外部評価を受けることによって、今一度初心に戻り、再確認し、改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は今までに2月と9月に開催。行政・地域包括支援センター・自治会・民生委員・ご家族など多くの参加があり、ホームの実情を報告し、意見交流も盛んに行われた。第三者の意見や助言は大変貴重なものとなっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの利用情報などを定期的に報告している。また、ホームの運営やサービス提供する上での疑問点などを担当者に尋ねるようにし、利用者様の不利益にならないように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまでの権利擁護に関する制度を利用する必要がある利用者様がいなかったこともあり、具体的な学習ができていない。	○	職員が研修などに参加し、勉強会を開くなど、知識を共有し、利用者様を支援できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同、利用者様一人一人の人格を尊重し、常に尊厳の念を持って、ケアに当たっている。高齢者虐待防止関連法について、今のところ学ぶ機会がない。	○	職員が研修などに参加し、勉強会を開くなど、知識を共有し、虐待事件の多い中、今以上に注意を払って行きたい。

グループホーム長岡京(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時より不安・疑問点を伺い、説明しています。重要事項の説明に関しても十分に時間をとり、理解・納得を得られるようにし、退去時にも同様の対応をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様に不満や苦情があれば、その都度、言っていたけような環境づくりに努めている。また、伺ったことは職員で話し合い、ご家族や主治医の協力を得て解決できるように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会にこられた際に日常の様子や健康状態について報告している。金銭管理については、月末に収支の締めを行い、領収書・レシートをお渡しし、支出の詳細についても報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的にコミュニケーションを図り、意見・不満・苦情などを言えるような環境づくりを心がけている。重要事項説明書にも公的な苦情処理窓口を掲載し、フロー掲示板にも貼り出している。玄関には意見箱も設置。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者もスタッフとして他の職員と同様の業務を行い、職員の意見・提案はその都度聞き、対処し、運営者にも報告している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>医療が必要な利用者様に対し、ご家族で対応ができないときは、職員で話し合い、勤務や業務の確認・出勤の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員のグループホームからの異動を行うことはない。産前産後、育児・病気などで、離職に至らないよう、休業制度もある。また、新入職員が入る場合は、人員の体制が許す限り、スタッフを重複して配置している。</p>	

グループホーム長岡京(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>長岡京病院で行われる各種勉強会へは参加を自由に行っている。公的機関による研修制度は、毎年誰かが受けるようにし、また、職員から上げられてくる研修参加の申し出は、よほどのことが無い限り、許可を出している。</p>	<p>○</p> <p>職員の人数の安定確保を図り、積極的に参加できる体制が組めるように支援していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会や乙訓地域内で行われる医師会と連携した委員会活動などにグループホームからも参加している。</p>	<p>○</p> <p>管理者だけでなく、他の職員も参加させていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフとのコミュニケーションを図り、状況の把握と介護上の要求に対し、迅速に対応するようにしている。また、職員の新年会を催したり、当法人内にあるフットサルチームに参加するなど、仕事以外でストレスを発散できるような場も提供している。</p>	<p>○</p> <p>環境整備が不十分な面もあり、対策を考えていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤続年数の長いスタッフや勤務に前向きなスタッフに専門研修や管理者研修を受ける機会を提供している。</p>	<p>○</p> <p>開所4年が経ち、能力と向上心のある職員については昇進なども考えていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時ご本人から不安や求めていることを伺っているが、認知機能の低下から表出困難な方もおられ、実際にはサービス利用開始後に真のニーズを伝えられること多く、その都度対応していく状態になっている。</p>	<p>○</p> <p>在宅時の担当ケアマネージャーからも情報を積極的に集めるようにして行きたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の来訪や電話があった際には十分に時間をかけて伺い、必要であれば何度でも話をし、不安の解消に努め、十分に納得していただけるように心がけている。</p>	

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の話を十分に聞き、意向を確認して対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居のサービスは実施していないが、見学に同行可能な方は、ご本人・ご家族と来所していただき、他の利用者様や職員と短時間でも交流を持っていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様との関りを大切にし、家事などをスタッフと共に行うことで、役割を認識し、自信の回復や喜びを感じていただけるように努めている。スタッフも利用者様からいろいろ教えていただき、お互い支えあえる関係を作るように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の帰宅願望時の面会や通院介助などをお願いしたり、常に情報を共有するようしたりし、共に支えあえる関係を築くように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長い期間を過ごされ、本当の思いをお話していただくことで、ご本人とご家族との関係に気づくこともある。時間をかけて、その関係がよりよいものとなるよう支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来られた時、ゆっくり過ごしていただいている。また、利用者様が外出が困難なときは、電話などをゆっくりできるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様一人一人の性格や身体状況、認知レベルなどを考慮して、利用者様同士の関係が途切れないように配慮している。		

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されても相談や連絡が取れるようにしている。また、退去時の不安解消を図るため、他施設への申し込みの援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションや生活の中での言動などから思いの把握に努めている。重度の方に対しては表情や態度などの反応から察知し把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の聞き取りや在宅療養手帳からの情報、ご家族に記入していただいたセンター方式シートにより、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活のリズムを大切にし、一日の過ごされ方、心身の状態を介護経過に記録し、援助に支障のないよう申し送りにも気をつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意見を取り入れた介護計画を作成するように努めているが、話し合い(サービス担当者会議)に本人やご家族、その他の関係者の参加が、時間的余裕の無さなどから、必ずしも出来ていない。	○	利用者様やご家族その他の関係者から意見やアドバイスを聞く為にも、サービス担当者会議の時間を増やしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケース検討会を開き、介護計画の見直しを行っている。見直し以前に大きな変化が見られた時は、新に計画の建て直しをしているが、この場合、利用者様・ご家族・関係者と十分な話し合いが必ずしも持てない。	○	見直しのたびに、ご家族へは介護計画のコピーを渡し、説明を行い承諾を頂いているがその他の関係者(主治医・訪問看護師)にも介護計画や常態の変化を把握していただけるようにしていきたい。

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設介護経過に日々の様子、気づき、工夫を記入し、申し送りを行い情報を共有している。また、これ以外にも申し送りノートを活用し、情報の漏れがないように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内の訪問看護ステーションと医療連携を結び、週2回の訪問日に相談・報告等を行っている。また、ホームの常勤看護職員が日々の健康管理と相談を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、民生委員・町内会の方々にも協力を要請している。近隣のスーパーや交番の協力も得ている。行事の際にはボランティアの協力も得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所の際に他の事業所と連絡を取り合うことはあるが、普段の生活の中で、他の事業所のサービスを受けることはしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今回はじめて運営推進会議に出席されたが、どのような形で共同していくかは今後の課題である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に利用者様やご家族の希望を伺い主治医を決めている。主治医には定期的に往診していただき、急変時には電話やFAXで報告をし、指示を受けている。		

グループホーム長岡京(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言動に注意を払い、利用者様のプライバシー保持や自尊心を傷つけないように努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の希望や自己決定を大切にし、それらを促す取り組みを行い、自分で選んだり、希望を言いやすい環境を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、体調面を考慮して、できるだけ希望に添えるように努めている。	○ 職員の人数にも限りがあり、希望に添えないことも多くある。ご家族やボランティアの協力を得て買い物の支援などを行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様、ご家族の希望により、出張理美容の援助を行っている。希望があれば、本人の望む店に行っていただくようにご家族にお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が一緒に食事の準備をし、昼食は同じ食事を食べ、片付けも一緒に行っている。楽しく食事ができるように音楽をかけ、隣席者の考慮もしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時には、スタッフと一緒に買い物に行ったり、また、面会者からの差し入れなど、本人のものは極力居室に置き、食べ過ぎないように配慮をしながら、支援している。	

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを知り、介助時には自尊心を損なわないよう留意している。尿意の表出困難な方には排泄チェック表を用いて時間誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務体制から安全を考慮し、入浴時間帯を決めている。その中でも一人一人の希望やタイミングにあわせたり、楽しく入浴できるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時安心して眠っていただけるように声かけをしている。日中も体調面を考慮して、随時居室で休息をとってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の生活歴に配慮して、家事などの役割に力を発揮していただき、楽しみを見出す支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを理解できる、金銭管理のできる方は小額であるが、自分で管理していただき、買い物の支払い時には見守るようにしている。能力的に困難な方は、スタッフが預かり管理することで、安心して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候と体調に配慮し、毎日散歩にお誘いしている。時にはご家族と出かけられることもあるので、体調などをお伝えしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋に介護タクシーを利用して、お花見や紅葉狩りに出かけている。また、定期的にご家族とドライブに出かけられる方もおられ、墓参りなどの希望をご家族に伝えている。	○	普段いけない場所へ外出する機会が少なく、利用者様から機会を多く持って欲しいとの希望もあり、検討していきたい。

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話はいつでもかけられるように支援している。年賀状のやり取りなどで、ご家族が手紙を書く支援している方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人、知人など自由に訪問して頂いている。その際にお茶を出したりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアの基本姿勢として、身体拘束がふさわしくないことを職員全員が理解している。身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者が各フロアーに一人になるときは玄関の鍵をかけている。頻繁に外へ出ようとする方には対しては見守りの強化や付き添い、お話の傾聴、短時間でも一緒に外出するといったことをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時利用者の所在は把握している。居室内を確認する際はプライバシーに配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の能力に応じて、居室にはその方にとって危険となるものは置かないようにしている。ご家族にも協力をお願いしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態に応じた事故防止策に取り組んでいる。事故発生時は事故報告書を作成し、再発防止に努めている。	○	転倒事故が多く、今後も一人一人リスクを把握し、事故防止に努めたい。

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が時間を設けて訓練することは出来ていない。急変時にはチャートに従い、管理者(看護職員)と主治医に報告し、指示を仰いでいる。応急手当についてはマニュアルに従い対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度避難訓練をしている。地域住民との連携体制は取れていない。	○	地域の人たちにグループホームの存在を認知し、理解していただけるような働きかけを行い、災害時には協力を得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や誤嚥等のリスクがある方については、ご家族の来所時にお話をし、対策について意見を伺っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事摂取量、排便の状況を記録し、異変の早期発見に努めている。発見時には速やかに主治医に報告し、指示を受けるようにしている。指示内容は記録し、スタッフが共有できるように申し送りを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わるごとに説明書にて確認する習慣が定着している。また、申し送りノートに記載し、誤薬のないようにしている。服薬後、症状に変化があればその都度主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を観察し、記録している。利用者様の希望に応じて飲水(牛乳)を進めている。毎日体操を行い、身体を動かしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人の能力に応じ、歯磨きの声かけや介助を行っている。ほとんどの方が、毎週1回歯科衛生士の口腔ケアを受けておられ、スタッフも指導を受けている。		

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の病院から管理栄養士が食材購入先の栄養士と相談の上、メニューを作成している。また、つき1回利用者様の好みや摂食状況を聞き、改善に努めている。毎日の摂取量は記録を残し、状況を把握し、必要に応じてキザミ食やミキサー食にして食事量が減らないようにしている。水分補給もその都度進めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、予防に努めている。感染対策委員による学習会を持つようにしている。	○	感染の予測を行い、予防に努める為に勉強会を開く機会を多く持ちたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、消毒の徹底始め、食中毒予防に努めている。食材は必ず加熱し、調理後は素早く提供できるようにしている。使用後の布巾などは加熱消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に樹木を植え、玄関には花を植えて明るい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行の邪魔にならないように緑を置いたり、花を飾るなどしている。全館バリアフリーにし、リビングにはテーブルを配し、ひろびろとした落ち着いたきのある共有空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでゆっくりとテレビを見られたり、ロビーで一人新聞を読まれるなどされている。気のあった方同士で、お話をされる時などはお茶を出したりしてゆっくりして頂いている。		

グループホーム長岡京(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたもの、なじみのものを準備して頂いている。心地よい安全な空間になるように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝換気を行い、温度調節は日中夜間かわらず、エアコンにて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、歩行の不安定な方なども手引き歩行や杖歩行、手すりの使用でなるべく歩いていただいている。長距離歩行が難しい方には動線が短くなるように配慮をしたり、最大限に身体能力が活かせるように対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を見極め、わかる力を活かせるように、まずは見守り、失敗や混乱して落ち込まれることが無いように補助している。このことで、できるだけ自立した生活が送れるように工夫して支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先にベンチを置き、外気浴ができるようにしている。また、庭の畑で芋掘りなど家庭菜園を楽しんでいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム長岡京(1階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、介護福祉士など有資格者を多く採用し、専門知識を生かしたケアが実践できていると考えています。面会時にはご家族とのコミュニケーションを図り、情報を共有し、何かあればすぐに報告をすることによって信頼関係を築いています。そのため、ご家族の協力も得られやすくなっています。定期的にケアプランの見直しを行い、一人一人にあわせたサービスが提供できています。月に1回行事を企画し、実施することで利用者様に楽しんでいただいています。個々の主治医とも連携が取れている為、急変時にはすぐに対応していただいています。